

Success Story

UMG ABS株式会社



Biz/Browser PrintStream®

大手メーカーの基幹システムにBiz/Browser VとPrintStream® Core SEを採用
大規模システムにおいて高速で安定したレスポンスを提供

ITシステムは企業競争力の強化をいかに支援できるのか、どうすれば同業他社と差別化し自社の強みを打ち出せるのか。この命題に応えるため、ABS樹脂製造販売の国内トップシェア UMG ABSでは、基幹システムの刷新で既存パッケージのバージョンアップを避け、スクラッチでの構築に挑戦した。そのクライアント画面作成用には Webプラットフォーム「Biz/Browser V」を、帳票出力には Web 帳票プラットフォーム「PrintStream® Core SE」を採用している。「Biz/Browser V」は旧パッケージシステムと比較して劇的な高速レスポンスを実現。さらに全システム共通 UIの構築やエンドユーザからの要求への柔軟な対応など、さまざまなメリットを提供している。

導入メリット

- ① 劇的な高速レスポンスを実現、海外からのアクセスにも支障なし。
- ② VB ライクの優れた UI をサーバ処理とは分離し効率的に構築。
- ③ ワークフローなどの周辺システムも同じ UI を提供。

導入背景

基幹システムのパッケージ更新を断念 スクラッチによるシステム構築に挑戦

第二次世界大戦後、石油化学が発達しさまざまな合成樹脂（プラスチック）が作られるようになる。ABS樹脂はその代表的な製品の1つで、家電や電気電子製品の各種外装・筐体・機構部品、自動車パネルなど内装部品、文具・雑貨類、事務用家具部材、楽器など、極めて幅広い分野で使用されている。「当社はこのABS樹脂製造と販売の国内トップシェア企業です」と、UMG ABS 情報システム部 部長 神近雅司氏は紹介する。

UMG ABS は、2002年に宇部サイコンと三菱レイヨンのABS樹脂事業が統合されて誕生した。歴史的には、1963年に日本で最初にABS樹脂の生産販売を始めたABS樹脂専門メーカーである。現在では国内のみならず、ABS樹脂関連事業をグローバルに展開している。

同社では化学メーカー向けERPパッケージを使用した基幹システムを構築し、2005年から稼働させていた。やがてクライアントOSがWindows XPからWindows 7に切り替わることになり、パッケージのバージョンアップが不可欠となった。

ところが使用していたパッケージにカスタマイズを多く加えていたこともあって、更新作業の難航が懸念された。「当社は世界的にも個性的な位置付けにあり、独自のビジネスを展開しています。元々汎用的なERPパッケージの導入に向けていませんでした。そこで、構築を担当するベンダーとも相談して、スクラッチでの構築を決めました。その方が当社ビジネスの差別化や競争力強化を支援できると判断したからです」と、同社 情報システム部 システムG チームリーダー 秀嶋伸之氏は振り返る。

選定理由

VBライクな画面を効率的に作成 決め手は国産ソリューションであること

2009年から刷新の検討を開始し、その年のうちにスクラッチと決定。エンドユーザにも要求を確認したが、レスポンスが遅い、操作性が悪いなどの不満が多く、これらもパッケージでは解決が困難であった。

同社では「ユーザーインターフェイス (UI) を最重視する」という方針を打ち立て、クライアント構築用ソリューションの検討に入った。「クライアントの操作性として Visual Basic (VB) をベストとし、

C/S と同等の操作性が提供可能な画面開発ができるソリューションを探しました。エンドユーザの操作性は、システムを提供する上で重要な要件です。DB の検索・更新処理はサーバでの処理なので、慣れ親しんだ言語での開発が行えるのも重要なポイントです」と、秀嶋氏は語る。

2010年になって候補が複数あがり、その中にオープンストリームの提供する Web プラットフォーム「Biz/Browser V」が含まれていた。ホームページから資料を請求し、オープンストリームの担当者が製品説明に訪問。その後評価と検証に入り、年が明けて2011年1月に採用の連絡をオープンストリームに届けた。

「Biz/Browser V に決定した要因は2つあります。1つは当初の目的どおりVBライクな画面が作れること。もう1つは国産のソリューションであることです。外資系のソリューションは買取や合併などで簡単にサポートを打ち切ってしまいます。国産であればそういうことはないだろうと期待しました」と、採用の理由を秀嶋氏は語る。HTMLでの構築も検討したが、ブラウザのバージョンに左右される。だが、「Biz/Browser V」はバージョンの違いを内部で吸収してくれる。

「サーバ側と構築作業を完全に分離でき、効率的に作成できると感じました。クライアントとサーバ間で転送されるデータ量が最小限に抑えられ、ネットワークへの負荷が軽いのも魅力でした」と、西日本情報システム 取締役事業部長 西部本社 産業システム部 部長 中山猛夫氏は評価する。

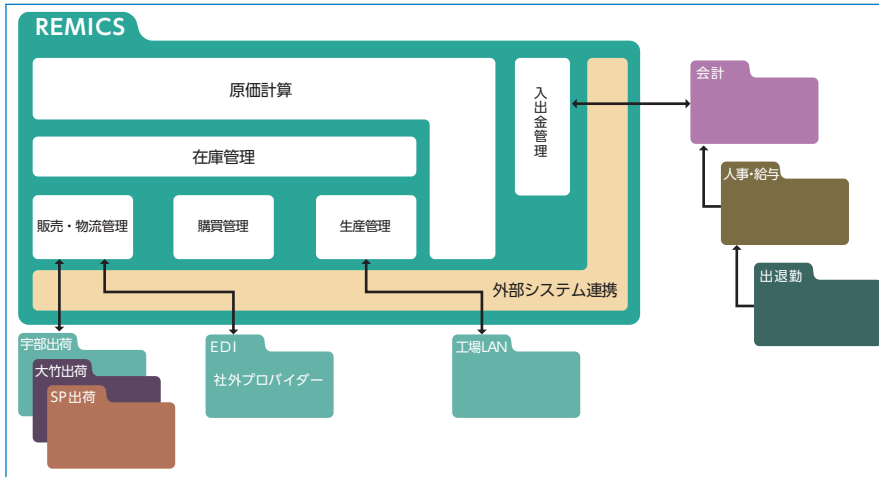
設計開発

部品を揃え、業務画面177、 出力帳票50を効率的に開発

「Biz/Browser V」の採用に続いて、Web 帳票プラットフォーム「PrintStream® Core SE」の採用も決まった。「プリントソリューションがセットになっているのがありがたい。相性も優れていて、デスクトップで出力というこちらの要求にも合っていました」と、秀嶋氏は「PrintStream® Core SE」採用の理由を語る。

2011年の採用決定後、社員のスタッフが集合研修を受講。「参加したのは6名。この6名がプロジェクト内に横展開していきました。Biz/Designer の操作性は Visual Studio に、CRS 言語は Java Script に言語仕様が似ていましたから、Web 開発の経験があれば容易に習得できました」と、西日本情報システム 西部本社 産業システム部 産業第2グループ 末次浩史氏は説明する。

■ 全体システム構成図【REMICS (リミックス)】



基幹システムの構築が本格化され、画面構築は十数名が担当した。「画面は部品づくりからはじめました。部品化を徹底し、それらを利用することで、効率化と標準化を目指しました」(末次氏)。テキストボックスなど、作成した部品は約60に及び、完成した画面数は177、フォーム・ダイアログ数まで含めると239画面となっている。また、「PrintStream® Core SE」では納品書や請求書など50帳票を作成している。

「Biz/Browser V は言語による開発となりますが、抵抗はありませんでした。最新バージョンになって Excel ライクなスプレッドシートコントロールが搭載されていますが、これも活用しました」と、UMG ABS 情報システム部 システムG 上野将徳氏は語る。同社は「Biz/Browser V」第1号ユーザであり、スプレッドシートコントロールではバグと性能問題が発見された。これに加えてユーザからの機能改善の要求についても、オープンストリームは素早く柔軟に対応した。「国産のベンダーに依頼して成功したと思いました。開発拠点が海外では、こうはできないと思います」(上野氏)。

導入効果 劇的なレスポンスの改善 エンドユーザの要求にも自在に対応

2012年秋から単体テスト、2013年初頭から結合テストを実施し、稼働開始は2013年8月12日。今回のシステム刷新では業務ワークフローも周辺システムの1つとしてスクラッチ構築している。「Biz/Browser V を利用することで、このような周辺システムも統一UIで構築できました。パッケージではありませんから、情報がダイレクトにデータベースに入ります」(秀嶋氏)。

新たな基幹システムは多彩な効果を提供している。まず、全システムの大きな課題であったレスポンスの改善。「月末などの処理が集中する時期にサーバに問い合わせてもなかなか返事が返ってきませんでした。今回の更新により飛躍的にレスポンスが早くなり、業務効率化に大きく貢献できたと思います。回線速度の遅い海外の端末でも問題なく使えています」と、上野氏が説明する。

さらに上野氏はエンドユーザの要求に応えることができるようになったことが、最大のメリットと指摘する。「従来は処理がブラックボックスでしたからエンドユーザからの改善要求が来てもほとんどは『できません』と応えていました。でも、これからは自分たちで構築したシステムですから、いかにようにでも対応できます」と微笑む。

秀嶋氏はコスト削減を高く評価している。「前システムはライセンス料も年間の保守料もずいぶんかかっていました。パッケージを使わないことでその料金がまったく必要ありません。メンテナンスも自分たちでできます。スクラッチの方が TCO を削減できると思います」と強調する。

「Biz/Browser V は大変いい製品だと思います。Windows OS や IE のバージョンアップによる差異を吸収できますから、アプリケーションへの影響が少なく、長く使っていくことができます。ERP パッケージはトップダウンの製品ですが、今回はボトムアップで成功したのではないかと思います。これを経営層にもアピールするとともに、経営層が必要とする情報系システムも充実させていきます」と、神近氏は今後の抱負を語った。さらに秀嶋氏は「Biz/Browser の iPad 対応版に注目しています。iPad なら経営層に受けるのではないかと思います」と、最後に iPad 対応版への期待を加えた。

西日本情報システム様コメント

UMG ABS 様は IT システムを武器にビジネス展開していくチャレンジ精神と強いこだわりがあります。この事が今回のスクラッチによる基幹システム構築の成功につながっていると思います。また、このような姿勢には「Biz/Browser V」が適しています。今回初めて「Biz/Browser V」を使いましたが、生産性の高さに驚きました。UMG ABS 様で構築した基幹システムはとても評判が良く、見学のお客が多く見えます。すでに「Biz/Browser V」の引き合いも数件いただいています。私たちも「Biz/Browser V」を武器に拡販していこうと活動を開始しています。

ユーザプロフィール

- UMG ABS 株式会社
- ABS 樹脂を製造・販売している国内トップシェアの企業。製品は自動車、IT 機器、家電・健康機器、住宅・建材機器に利用されている。東京に本社、製造拠点が山口県宇部市と広島県大竹市、技術開発センターが山口県宇部市にある。
- 設立 2002年4月1日
- 資本金30億円
- http://www.umgabs.co.jp/

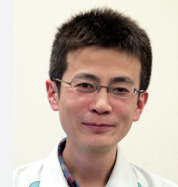
お話をうかがったお客様



UMG ABS 株式会社
情報システム部 部長
神近 雅司氏



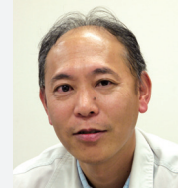
UMG ABS 株式会社
情報システム部 システムG
チームリーダー
秀嶋 伸之氏



UMG ABS 株式会社
情報システム部 システムG
上野 将徳氏



株式会社西日本情報システム
取締役事業部長
西部本社 産業システム部
部長
中山 猛夫氏



株式会社西日本情報システム
西部本社 産業システム部
産業第2グループ
末次 浩史氏

記載されている会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。本ドキュメントの掲載内容は、2014年2月現在のものです。掲載内容については、予告なく変更する場合があります。